

第2章 本市スポーツの現状と課題

1. 本市スポーツの現状と課題

①人口の推計とスポーツ振興の課題

日田市の人口に関する見通しとして、2015年現在の日田市の人口が66,523（国勢調査）人であるのに対し、2040年に49,139人、2060年に35,715人と推計されており、高齢化率も40.1%となることが見込まれています（社人研：国立社会保障・人口問題研究所による推計。2012(平成24)年1月に発表）。

この少子高齢化を含めた人口減少問題は、経済規模の縮小や高齢者の増加による社会保障費の増加など、経済社会にも大きな悪影響を及ぼす

ことが懸念され、このままでは、日田市地域にも大きな打撃を与える深刻な問題です。

そこで日田市では平成27年に「人口ビジョン 地域力 日本一～持続可能なまちづくり～」策定し、国・県・市によって自然増・社会増の取組を進め、人口減少に歯止めをかけ、自然増減（合計特殊出生率）仮定値 2030年までに

2. 1まで上昇する

ことによって、2060年の人口を50,795人として、5万人規模の人口維持を目指すこととしています。



図03 日田市人口推計①

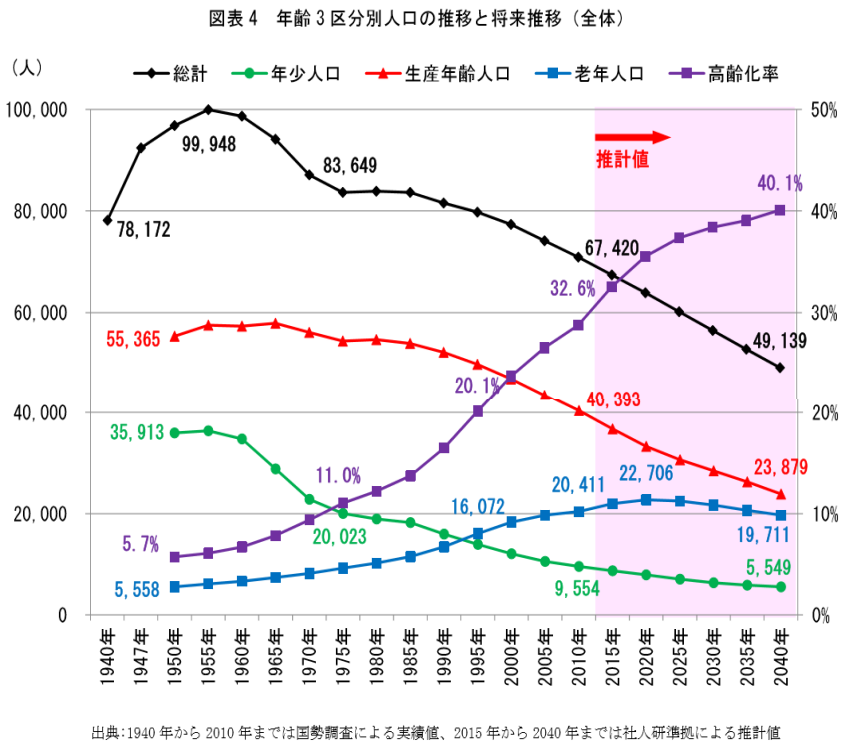


図04 日田市人口推計②

第2章 本市スポーツの現状と課題

人口の増加、すなわち地域への定住は、地域への愛着が最大の要因ですが、今回のスポーツ振興計画改訂にあたって実施しました市民意識調査（ページ以降参照）によれば、スポーツ実施者において、「地域に対して愛着を持つ」との回答を得られた率が84.3%であるのに対し、非実施者の同じ率は75.8%であるとの結果が得られ、有意な差が生じています。

スポーツの実施率が、人口の増減に影響する可能性を示唆するデータであり、地域定住の指標として重要な鍵と言えます。スポーツ実施率の向上は、定住自立の核心に触れるものとも言えます。

②スポーツ施設の現状と課題

日田市には79の市営スポーツ施設があります。そのうち主要な施設の利用状況については以下のとおりです。

図05 主要なスポーツ施設の利用状況

	H23	H24	H25	H26	H27
大原運動公園	95,079	94,260	111,917	96,474	114,455
天瀬総合運動公園	17,822	16,716	17,060	19,413	18,422
B&G 天瀬海洋センター	11,201	12,765	14,344	15,203	15,056
B&G 津江海洋センター	23,455	19,513	22,723	24,199	23,014
鯛生スポーツセンター	36,416	32,859	34,845	34,925	31,624

図06 各地域ごとのスポーツ施設数

	日田	天瀬	大山	前津江	中津江	上津江	計
地区人口	57,313	4,957	2,826	1,020	831	845	67,792
陸上競技場	1	1	-	-	-	-	2
野球場	2	-	-	-	-	-	2
サッカー場	-	-	-	-	1	-	1
多目的運動広場	6	2	1	-	-	3	12
プール	9	1	1	-	1	-	12
体育館	3	2	-	-	2	-	7
武道場(柔・剣・銃剣・弓・相撲)	5	1	-	1	-	-	7

第2章 本市スポーツの現状と課題

アーチェリー場	1	-	-	-	-	-	1
テニスコート	2	2	-	-	1	-	6
トレーニング場	3				1		4
ゴルフ場(ゴルフ練習場含む)	3	1	-	-	-	-	4
ボウリング場	1	-	-	-	-	-	1
キャンプ場	2	-	-	1	1	2	6
漕艇場	1	-	-	-	-	-	1
屋内ゲートボール場	-	1	-	-	-	2	3
オートレース場	-	-	-	-	-	1	-
ナイター施設	5	2	1	-	-	-	8

図06 日田市教育委員会体育保健課が所管する体育施設の概要(平成28年4月現在)

No	管理者	体育施設の名称	建築年		経過年数	延べ床面積(m ²)
1	サービス公社	日田市大原公園テニスコート(砂入り人工芝)	S	62	28	6,068.00
2	サービス公社	日田市総合体育館	H	2	25	5,000.30
3	サービス公社	日田市総合体育館(柔道場)	H	2	25	498
4	サービス公社	日田市総合体育館(剣道場)	H	2	25	498
5	サービス公社	日田市陸上競技場	H	10	17	1,546.60
6	サービス公社	日田市竹田テニスコート	S	36	54	—
7	サービス公社	日田市竹田プール	S	38	52	1,050.00
8	サービス公社	日田市相撲場	S	58	32	384
9	サービス公社	日田市大原グラウンド	S	47	43	—
10	サービス公社	日田市朝日ヶ丘球場	S	47	43	21.6
11	サービス公社	日田市平野球場	S	61	29	251.1
12	サービス公社	日田市光岡スポーツ広場	S	62	28	—
13	サービス公社	日田市三和スポーツ広場	S	63	27	—
14	サービス公社	日田市中城グラウンド	S	51	39	—
15	サービス公社	日田市中城体育館	S	47	43	868
16	サービス公社	日田市武道場	S	47	43	528.9

第2章 本市スポーツの現状と課題

17	サービス公社	日田市京町プール	S	52	38	172.4
18	サービス公社	日田市北友田3丁目プール	S	52	38	199.7
19	日田市	日田市大原テニスコート	S	40	51	—
20	日田市	日田市有田小夜間照明施設	S	39	51	—
21	日田市	日田市大明中夜間照明施設	S	47	43	—
22	日田市	日田市南部中夜間照明施設	S	53	37	—
23	日田市	日田市五馬中夜間照明施設	S	53	37	—
24	日田市	日田市三隈中夜間照明施設	S	54	36	—
25	日田市	日田市東溪中夜間照明施設	S	54	36	—
26	日田市	日田市東有田スポーツ広場	S	51	39	—
27	日田市	日田市財津町スポーツ広場	S	52	38	—
28	日田市	日田市大鶴スポーツ広場	H	10	17	—
29	日田市	日田市ウェイトリフティング場	H	13	14	84
30	日田市	日田市弓道場	S	41	49	337.5
31	日田市	日田市アーチェリー場	H	25	2	502.5
32	日田市	日田市夜明漕艇場(トレーニングセンター)	H	6	21	386.6
33	日田市	竹田艇庫	H	17	10	116.8
34	日田市	日田市前津江町柔剣道場	S	61	29	360.4
35	日田市	日田市広川運動広場(屋根付き多目的広場)	H	9	18	935.4
36	日田市	日田市川辺体育館	S	44	46	647
37	日田市	日田市都留スポーツセンター	H	8	19	400
38	日田市	日田市上津江グラウンド	H	9	18	—
39	日田市	日田市上津江体育館	H	13	14	530.6
40	日田市	日田市上野田多目的スポーツ広場	H	16	11	615.6
41	日田市	日田市大山 B&G 海洋センタープール	S	58	32	1,129.50
42	日田市	日田市五馬弓道場	S	55	35	72.9
43	サービス公社	日田市 B&G 天瀬海洋センター体育館	S	61	29	1,218.40
44	サービス公社	日田市 B&G 天瀬海洋センター柔剣道場	S	61	29	497.7
45	サービス公社	日田市 B&G 天瀬海洋センタープール	S	61	29	875.1
46	サービス公社	日田市天瀬スポーツ広場	S	63	27	—
47	サービス公社	日田市天瀬第1テニスコート(クレイ)	S	63	27	—
48	サービス公社	日田市天瀬第2テニスコート(クレイ)	S	63	27	—

第2章 本市スポーツの現状と課題

49	サービス公社	日田市天瀬総合グラウンド	H	2	25	—
50	サービス公社	日田市天瀬屋根付き運動広場	H	3	24	1,620.00
51	サービス公社	日田市天瀬やまびこ研修所	H	10	17	275.9
52	地球財団	日田市 B&G 津江海洋センター(武道場)	H	2	25	—
53	地球財団	日田市鯛生スポーツセンター(宿泊施設)	H	2	25	4,639.90
54	地球財団	日田市 B&G 津江海洋センター(体育館)	H	3	24	1,828.60
55	地球財団	日田市 B&G 津江海洋センター(プール)	H	3	24	833.1
56	地球財団	鯛生スポーツセンター(活性化施設)ウッドスター	H	13	14	800

日田市が設立したスポーツ施設の多くは老朽化により経年劣化が進んでいますが、今後の利用状況によっては、日田市がこのまま管理を続けていくべきかなど、将来的な財政負担も踏まえて、施設ごとに「継続」、「民間または地域への移管」、「廃止」などの方向性について、現在、検討を進めています。検討結果は日田市公共施設総合管理計画※として、公表することとしています。

またその中で、「継続」と判断された施設については、耐用年数いっぱいには利活用が図られるよう適正な管理と整備が求められます。整備を行うに当たっては、施設の将来的な利用状況や、償却の状況、費用などの条件を勘案して整備計画を立案し、大規模改修等、計画的に整備を進めていく必要があります。

③競技スポーツの現状と課題

日田市体育協会の現状

日田市体育協会は、35 競技団体で構成されています。

図 07 日田市体育協会種目部の登録状況（平成28年11月1日現在）

種目	成人		小・中・高校生		計	
	団体数	登録者数	団体数	登録者数	団体数	登録者数
水泳	2	41	—	—	2	41
陸上	—	60	—	350	—	410
テニス	20	130	4	70	24	200
バスケットボール	4	61	26	390	30	451

第2章 本市スポーツの現状と課題

ウェイトリフティング	1	26	-	2	1	28
卓球	-	44	-	214		258
軟式野球	16	330	15	202	31	532
相撲	-	19	-	-	-	19
バドミントン	10	180	-	370	10	550
弓道	-	79	-	-	-	79
ラグビー	-	50	-	50	-	100
自転車	-	14	-	-	-	14
ソフトテニス	-	74	-	-	-	74
柔道	1	105	1	25	2	130
剣道	1	120	12	152	13	272
山岳	2	45	-	-	2	45
サッカー	11	205	-	480	11	685
ソフトボール	17	350	-	-	17	350
バレーボール	18	200	2	20	20	220
ハンドボール	-	10	-	-	-	10
ライフル射撃	-	7	-	-	-	7
クレ射撃	-	6	-	-	-	6
銃剣道	-	10	-	-	-	10
ボウリング	-	190	-	-	-	190
空手道	1	15	-	30	1	45
アーチェリー	1	32	-	-	1	32
スキー	-	16	-	-	-	16
ゲートボール	19	161	-	-	19	161
ゴルフ	-	30	-	-	-	30
カヌー	-	22	-	-	-	22
ボート	1	15	-	31	1	46
グラウンドゴルフ	25	685	-	-	25	685
フェンシング	0	8	-	-	-	8
ミニバレーボール	19	190	-	-	19	190
	-	-	-	-	-	
計	169	3,530	60	2,386	229	5,916

第2章 本市スポーツの現状と課題

体協傘下の各競技団体においては、ほぼ共通して競技者の高齢化のほか、競技人口の減少や低迷といった課題を抱えています。

日田市スポーツ少年団の現状

日田市スポーツ少年団には、平成28年度、18団体401名が登録されています。

図08 日田市スポーツ少年団の登録団体数

年度	加入団体					
	野球	サッカー	空手道	バレーボール	バスケットボール	計
24年度	11	5	2	2	1	21
25年度	10	5	1	2	-	18
26年度	10	5	1	2	-	18
27年度	12	5	1	2	1	21
28年度	11	4	1	2	-	18

図09 日田市スポーツ少年団の登録状況

年度	登録状況									備考
	指導者					団員			合計	
	男	女	小計	認定育成員 (内数)	認定員 (内数)	男	女	小計		
24年度	69	4	73	-	-	326	33	359	432	
25年度	64	3	67	18	10	270	36	306	373	
26年度	66	3	69	1	26	255	32	356	356	
27年度	76	3	78	11	23	282	41	323	401	
28年度	63	2	65	1	40	217	26	307	307	

図10 平成27年度日田市スポーツ少年団活動状況

期日	事業名
諸会議	
5月8日	大分県スポーツ少年団委員総会(大分市)

第2章 本市スポーツの現状と課題

8月18日	日田市スポーツ少年団総会(委員会・指導者協議会)
3月8日	大分県スポーツ少年団常任委員会(大分市)

研修会・講習会

6月13・14日	大分県ジュニア・リーダースクール(前期)(大分市)
11月1日	指導者・母集団連帯研修会(大分市)
8月29・30日	スポーツリーダー兼認定員養成講習会(玖珠町)
11月21・22日	大分県ジュニア・リーダースクール(後期)(大分市)

競技別大会

5月10日	空手道交流大会(小学生大会)(杵築市)
6月14日	〃 (中学生大会)(杵築市)
8月1・2、8・9日	大分県サッカー交流大会(知事杯)(大分市)
7月18～20日	軟式野球交流大会(国東市)
8月 1～ 3日	大分県少年野球選手権大会(別府市)
7月 5～26日	ミニバスケットボール交歓大会(中津市)
11月21～23日	〃 (大分市)
7月18・19日	バレーボール交流大会(九州ブロック選考会)(大分市)
11月28・29日	〃 (全国大会選考会)(佐伯市)
1月24日	第30回日田市少年少女交流駅伝大会(日田市) 中止
2月11日	第24回大分県スポーツ少年団駅伝交流大会(大分市)

スポーツ少年団傘下の各競技団体においては、少子化の影響によりほぼ共通して部員数を確保できないといった課題を抱えています。

主なスポーツ大会の成績

本市の主なスポーツ大会の成績、並びに市内選手の国際大会の出場や全国大会の主な成績は下記のとおりです。

様々な国際大会や国民体育大会等の日本トップレベルの大会で日田市選手が活躍する姿は、多くの市民に夢と感動を与えるとともに、スポーツへの興味や関心を高め、郷土への誇りと市民の一体感を生み出すなど、活力ある健全な社会の形成にもつながるものです。

国際大会出場競技種目を見ると、ボート競技などについては、長期にわたって優れた選手を輩出してきており、もはや日田市のお家芸とも言えるスポーツとして定着しています。

第2章 本市スポーツの現状と課題

すでにトップアスリートに成長した選手はもちろん、今後もこれらの選手に続く人材が育成されることが期待されます。

さらに、そのような人材が後進のための指導者としても活躍するという好循環を生む雰囲気づくりを醸成することも重要です。

県民体育大会においては、県内市町村の人口順位が5番目であることからすると、順当かそれ以上の好成績であることがわかります。さらに上位を目標とすることもできますが、現在の位置を保持していくことも努力の必要なことであり、目標としては妥当だと考えられます。

図 11 大分県民体育大会における日田市の総合成績

年 度	大分県民体育大会成績	春季県体県内一周 大分合同駅伝大会成績
23年度	4 位	2 位
24年度	3 位	3 位
25年度	3 位	9 位
26年度	3 位	5 位
27年度	5 位	5 位

図 12 国際大会出場選手

年 度	種 目	大 会 名 等
23年度	ウェイトリフティング	IWF 世界マスターズ大会
24年度	フェンシング	2013年フェンシングスウェーデン大会
25年度	—	—
26年度	ボート	世界ジュニアボート選手権大会
	ウェイトリフティング	IWF 世界マスターズ大会
27年度	ウェイトリフティング	IWF 世界マスターズ大会
	ボート	アジアジュニア選手権大会
	ボート	世界ジュニアボート選手権大会

図 13 全国大会での主な成績

年 度	種 目	大 会 名・成 績
23年度	ボート	国民体育大会 3位
	フェンシング	国民体育大会 1位

第2章 本市スポーツの現状と課題

	ボート	全日本選手権大会 1位
24年度	ボート フェンシング	国民体育大会 3位 国民体育大会 3位
25年度	フェンシング フェンシング	全国高等学校総合体育大会 3位 国民体育大会 2位
26年度	ボート ボート ボート	全日本ジュニア選手権大会 3位 全国高等学校選抜ボート大会 1位 全国高等学校選抜ボート大会 2位
27年度	陸上 ボート ボート ボート 綱引き アーチェリー 陸上	全日本マスターズ陸上競技選手権大会 2位 全国高等学校選抜ボート大会 3位 国民体育大会 1位 国民体育大会 3位 国民体育大会 3位 国民体育大会(障がい者大会) 2位 国民体育大会(障がい者大会) 1位

④市民の体力の現状と課題

小中学生の体力（日田市体力向上アクションプランより）

日田市教育委員会では、大分県教育委員会「目標達成に向かって組織的に取り組む『芯の通った学校組織』推進プラン」に基づき、日田市の児童生徒の体力向上に向けた取り組みの指針となる年度ごとの「体力向上プラン」を策定しています。

プランでは、全国比達成率は県全体の結果を上回っているものの、個別に見ると50m走（瞬発力）に課題が認められ、下位層については全体的な底上げが進んでいるものの、学年によっては高い割合を示している、とされており、また、ほとんど毎日（週3日以上）運動している児童の割合と、運動をすることが好きと答えた女子児童の割合がそれぞれ県全体と比較して低くなっていると分析されています。

図 14 平成27年度児童・生徒体力・運動能力等調査結果（全国比達成率）

	全国比達成率	全体	男子	女子
小学校	日田市	88.5%	83.3%	91.7%

第2章 本市スポーツの現状と課題

	大分県	74.0%	75.0%	72.9%
中学校	日田市	79.2%	83.3%	75.0%
	大分県	25.0%	33.3%	16.7%

※全国達成率とは、8種目の体力調査項目ごと、学年ごと、男女ごとに全国平均値以上、または同等と認められる項目数の割合を示します(小学校は96項目中の割合、中学校は48項目中の割合)。

※体力調査項目は握力(筋力)、上体起こし(筋持久力)、長座体前屈(柔軟性)、反復横とび(敏捷性)、シャトルラン(全身持久力)、50m走(瞬発力)、立ち幅とび(瞬発力)、ソフトボール投げ(中学校はハンドボール投げ・筋力)の8項目。

図 15 体力テスト総合判定における低体力層(D+E層)の割合

小学校		D+E層の割合	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
		男子	日田市	23.0%	21.3%
大分県	26.6%		22.9%	23.5%	
全国	26.0%		22.3%	22.4%	
女子	日田市	24.0%	18.7%	16.1%	
	大分県	25.8%	21.2%	20.2%	
	全国	26.0%	20.4%	18.1%	
中学校		D+E層の割合	中学校1年	中学校2年	中学校3年
		男子	日田市	35.5%	16.1%
	大分県		34.3%	24.5%	18.8%
	全国		31.9%	17.9%	12.1%
	女子	日田市	9.8%	7.8%	10.0%
		大分県	10.8%	13.7%	17.6%
		全国	8.2%	8.0%	11.0%

※体力調査8項目の成績を1点から10点に点数化し総和した合計80点満点を5段階(A~E)で判定したもの。

これらのことから、同プランでは、総合評価C以上の児童生徒の割合を高め、体育の授業を除いて運動の日常化・習慣化を図り、運動をすることの好きな児童生徒の割合を高めることが重要な課題である、とまとめています。

成人の体力

本市では、文部科学省が実施する体力・運動能力調査への協力の一環として、小中

第2章 本市スポーツの現状と課題

学生だけでなく、成人の体力テストを毎年実施しています。毎年、たくさんの地域住民の方が参加し、調査におけるサンプル数値の提供について協力をいただいています。

統計資料は日田市民の体力の現状を知るほどに有意と言えるサンプル数ではありませんが、国民の体力・運動能力を知るために貴重な標本となるため、今後も関係団体等と協力をしながら、継続して調査を行っていきます（調査実績 43 ページ参照）。

以下、文部科学省「平成 25 年度体力・運動能力調査結果の概要」からの引用

① 成年（20 歳から 64 歳）

○長期的にみると、握力と急歩には、一定の傾向はみられないが、反復横とびでは、向上傾向を示している。

○新体力テスト施行後の 16 年間では、20mシャトルランは男子においては向上傾向がみられるが、女子においては一定の傾向はみられない。

○急歩においては、各年代を通してほとんど変化がみられない。

○反復横とびは、30 歳代の女子以外では緩やかな向上傾向を示している。

○多くの年代で上体起こしは向上傾向、長座体前屈では低下傾向を示している。

○握力、立ち幅とびは、20～40 歳代で低下傾向を示しているが、50～60 歳代では向上傾向がみられる。

○新体力テスト施行後の 16 年間の合計点の年次推移をみると、男女ともに 30 歳代では低下傾向がみられるが、50 歳以降では男女とも緩やかな向上傾向を示している。

② 高齢者（65～79 歳）

○高齢者における握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行及び新体力テストの合計点について、ほとんどの項目及び合計点で向上傾向を示している。

⑤スポーツイベント・スポーツツーリズムの現状と課題

市内では、種々のスポーツイベントが開催されています。まず、各競技団体や実行委員会等で開催するスポーツ関連イベントで、平成 27 年度に日田市教育委員会が名義後援を行ったイベントやコンベンションには次のような催しがあります。

第2章 本市スポーツの現状と課題

図 16 平成27年度日田市教育委員会が名義後援によるスポーツイベント

種 目	イ ベ ント 名
野 球	日田信用金庫旗争奪日田市玖珠郡少年野球大会
ボ ー ト	水郷ひた三隈川ボート大会
ソフトテニス	九州地区実業団ソフトテニス大会・全九州天領日田シニアソフトテニス大会
バスケットボール	近県バスケットボール選手権大会・日田カップ大会
レクリエーション	あそびの日
バドミントン	日田市小学生バドミントン大会・大分県小学生バドミントン選手権大会・若鮎カップ小学生バドミントン大会
ソフトボール	日田市子ども会ソフトボール中央大会・日田すいめいライオンズクラブ旗争奪日田地区近郊中学女子ソフトボール大会
バレーボール	久大日田沿線バレーボール大会
剣 道	大原八幡宮奉納少年剣道大会・近圏親善剣道大会・日田市少年剣道選手権大会・近県少年剣道大会・近県選抜少年剣道個人錬成大会
柔 道	日田少年柔道大会
マ ラ ソ ン	日田市新春マラソン大会
駅 伝	日田市少年少女交流駅伝大会
水 泳	ニチレイチャレンジ日本水泳連盟泳力検定会
ウ ォ ー ク	ひたウォークラリー大会
空 手 道	日田市長杯争奪空手道大会

また、教育委員会名義後援イベントを除き、平成27年度に日田市体育協会が主管したスポーツ関連イベントは次のとおりです。

図 17 平成27年度日田市体育協会主管のスポーツ関連イベント

種 目	イ ベ ント 名
アーチェリー	九州地区マスターズアーチェリー大会
全 般	市民体育大会・大分県民体育大会
駅 伝	春季県体県内一周駅伝競走大会
グラウンドゴルフ	市長杯グラウンドゴルフ大会
ボ ー ト	水郷三隈川ボート大会

第2章 本市スポーツの現状と課題

相 撲	川開き観光祭相撲大会
弓 道	大原八幡宮奉納弓道選手権大会
ラグビーフットボール	日田ラグビーフェスティバル
サ ッ カ ー	JFL フットボールリーグ
卓 球	日田近県卓球大会
野 球	スポーツ少年団競技力向上事業(ソフトバンクホークス現役選手による技術指導)
バドミントン	競技力向上事業(指導者研修・実技指導)
ウェイトリフティング	競技力向上事業(オリンピック金メダリストによる技術指導・講演会)
バスケットボール	競技力向上事業(テーブル・オフィシャル研修会)
そ の 他	スポーツ医科学研修(講演会)

このように、数多くのスポーツ関連イベントが年間を通して体協のほか各競技団体によって開催されていますが、その多くは市民だけでなく、市外や県外からの参加者も多く、他市市民等との交流が図られているコンベンションが多数を占めています。

日田市内において開催されるコンベンションの主催者に対しては、その事業に要する経費の一部を助成することにより、市内へのコンベンションの誘致を促進し、もって地域への経済効果の波及を図るとともに、人的交流の拡大に資することを目的とする「コンベンション誘致事業」を実施しています。

日田市は、九州の中央部に位置し九州各県からのアクセスも良く、日田市陸上競技場など、施設も充実していることから、スポーツコンベンションの今後も一層振興が図られることが期待されます。

また、スポーツツーリズムにおいては、日田市が事務局となり、実行委員会を組織して補助金、交付金により運営されているイベントに「天領日田ひなまつり健康マラソン大会」、「ひた 42195 チャレンジウォーク」、「椿ヶ鼻ヒルクライムレース大会」があります。

これらのイベントは、日田市におけるスポーツのビッグイベントとして定着しているものですが、コンベンション誘致事業と軌を一にして、県内外からの誘客に努め、一層の人的交流が図られる取り組みとすることが重要です。

第2章 本市スポーツの現状と課題

図 18 5年間のスポーツイベント参加者の動向

イベント名	H23	H24	H25	H26	H27
天領日田ひなまつり健康マラソン大会	1054	1433	1507	1169	1827
ひた 42195 チャレンジウォーク	938	764	679	634	576
椿ヶ鼻ヒルクライムレース	-	-	-	231	272

⑥その他の取り組みに関する現状と課題

図 19 平成27年度日田市スポーツ推進委員協議会の活動状況

月	日	事業名	催事参加者	備考
4	9	県民すこやかスポーツ祭実行委員会	-	大分市
	17	平成27年度 総会	-	
	21	日田地区ス推第1回理事会	-	
5	10	県民すこやかスポーツ祭	48	
	10	日田地区ス推委員協議会 総会	-	
	11	大分県ス推協第1回評議員会	-	大分市
6	4	定例会	-	地区体カテスト・キンボールに関すること 他
	10	咸宜小学校 キンボール指導	159	
	23	咸宜小学校 キンボール指導		
	28	高瀬地区体力判定テスト	65	
7	2	定例会	-	ナイターグラウンドゴルフ大会について 他
	18	石井小学校 キンボール指導	32	
	19	西有田地区体力判定テスト	41	
8	1	家族ふれあいナイターグラウンドゴルフ	28	
	6	定例会	-	チャレンジウォークについて 他
	29	大分県ス推委員初任者研修会	-	
9	3	定例会	-	チャレンジウォークについて 他
10	1	定例会	-	チャレンジウォークについて 他
	4	椿ヶ鼻ヒルクライムレース	272	
	6	日田地区ス推第2回理事会	-	
	8	チャレンジウォーク班長会議	14	全体会議前の打ち合わせ
	15	チャレンジウォーク全体会議	50	当日の役割分担等について

第2章 本市スポーツの現状と課題

	25	第21回チャレンジウォーク大会	553	
	29	第1回ひなまつりマラソン実行委員会	-	
11	6	石井小学校 キンボール指導	38	
	11	定例会	-	チャレンジウォーク反省
	14	日田地区スポ推後期研修会	6	九重町飯田高原(オルレ)
	23	スポーツデイ	45	中城体育館
	26	第2回ひなまつりマラソン実行委員会	-	
12	3	定例会	-	研究大会に関すること 他
	6	大分県スポーツ推進委員研究大会	-	
	22	石井小学校 キンボール指導	58	
1	8	定例会	-	少年少女交流駅伝大会 他
	24	日田市少年少女交流駅伝大会	-	大雪のため、中止
	30 31	九州地区スポーツ推進委員研究大会	-	大村市
2	12	2・3月定例会	-	ひなまつり健康マラソン大会に関すること 他
	18	第3回ひなまつりマラソン実行委員会	-	
3	13	第17回ひなまつり健康マラソン大会	1,638	

日田市スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づいて設置された、専門的な知識や経験によって、地域のスポーツ活動や健康増進活動について指導や助言を行う、日田市のスポーツ振興において中核的な役割を持つ人材であり、主に地域や市民の運動やスポーツ実施に密接にかかわる活動を行っています。

そのため日田市としては、推進委員協議会と一層連携を強化し、活動の活性化を目指す必要があります。

総合型地域スポーツクラブの現状

本市には総合型地域スポーツクラブとして1団体が登録されています。

図 20 総合型地域スポーツクラブの登録状況

年度	小学生	中学生	高校生	大人	計	主な活動等
24年度	21	25	2	4	52	バスケットボール ソフトテニス バドミントン

第2章 本市スポーツの現状と課題

25年度	28	58	-	-	86	バスケットボール
26年度	13	49	-	-	62	バスケットボール
27年度	13	33	-	-	46	バスケットボール
28年度	10	30	-	-	40	バスケットボール

日田市で唯一総合型地域スポーツクラブとして登録されている団体においては、クラブのあり方の維持に苦慮しています。総合型地域スポーツクラブはスポーツの側面から地域のコミュニティづくりを行うことを目的としており、そもそもコミュニティの形成の能力が不足している都市型モデルとして発祥したものであるため、スポーツ以外でもコミュニティ形成が十分に可能である日田地域にはなじみの薄いものと言えます。

したがって現状を踏まえ、団体の今後の方向性として、総合型地域スポーツクラブという制度的な団体ではなく、現在の当該団体の個性を生かした団体運営を目指すため、日田市としても協働していかなければなりません。

健康ひた21計画（平成27年～31年）による取り組み

健康ひた21計画においては、学童期以降の生涯各期において、運動・身体活動分野を重点分野と位置付けています。

当該計画策定に向けて行われた生活習慣実態調査（平成24年）では、特に青壮年期が運動不足を感じている率が77.8%と高く、生活習慣病の予防のために運動の推進は重要な取り組みとされており、本計画における運動・スポーツ実施率の向上と完全に符合します。

ひた市民健活ポイントサービス事業（健活事業）の取り組み

日田市では、平成28年度から、市民の健康寿命の延伸の実現を目指し、運動習慣の定着化と食育の推進を図ることを目的に、健康づくりへの動機づけを促進するため、市等が実施する健康づくり事業に参加した方にポイントを付与します。貯めたポイントを商品券に交換したり、自治会に寄附できる事業として「ひた市民健活ポイントサービス事業（健活事業）」を実施しています。

健活事業では、市民の健康診断受診や日々のウォーキング実施のほか、「行きましたよポイント」として、市や教育委員会、地区公民館、自治会等が主催の健康づくりや料理教室等、文化講座、講演会に参加した場合などにポイントを付与されます。

この制度は、スポーツイベントなどに参加することによって得られるポイントを貯める楽しみとともに、運動・スポーツをやってみよう、といった意識が高まっていく

第2章 本市スポーツの現状と課題

ことが期待されます。

2. 市民意識調査の結果

アンケートの実施について

後期の計画の策定にあたり、市民の意向や活動状況を把握するとともに、幅広い市民の意見を計画に反映するために市民意識調査を下記の要領で行いました。これによりまして、前回、本計画を策定する際に行った調査との比較をすることによって意識やスポーツ実施の動向を知ることができました。

実施期間：平成28年7月1日～7月29日

対象者：市内に住所を有する19歳以上の1,000名

実施方法：郵送配布、郵送回収

回収状況：回収数351名、回収率35.1%

運動やスポーツの実施頻度、実施の意向

有職率との因果関係により、週3日以上の実施者は50歳代以上の実施率が高く、70歳代でピークを迎え、それ以上は再び低下している傾向と、30～40歳代の率が低くなっている傾向がうかがえます。また、「ほとんどしていない」については30歳代が特に高くなっており、50歳代をはさんで高齢の方に高い傾向があります。このことから、スポーツの実施率を高めるには、有職者や高齢者が、気軽に運動やスポーツを実施できる環境づくりや、手軽な運動内容などの普及、機会の創出などが課題であると言えます。

また、「この1年間の運動やスポーツの実施頻度」と「今後実施したい運動やスポーツの実施頻度」を比較すると、全体的に高い頻度の実施を希望しており、市民のスポーツ等への意欲は高いと言えます。

第2章 本市スポーツの現状と課題

図 21 この1年間の運動やスポーツの実施頻度

年代	週に3日 以上	週に1～2 日	月に1～3 日	3ヶ月に1 ～2回	年に1～2 回	ほとんどし ていない
10・20 歳代	12.5%	18.8%	43.8%			24.9%
30 歳代	7.4%	25.9%	3.7%	7.4%	11.1%	44.5%
40 歳代	8.7%	23.9%	21.7%	6.5%	15.2%	24.0%
50 歳代	18.9%	28.3%	18.9%	7.5%	5.7%	20.7%
60 歳代	20.0%	18.8%	14.1%	7.1%	4.7%	35.3%
70 歳代	29.2%	21.5%	7.7%	6.2%	4.6%	30.8%
80 歳代	21.4%	19.0%	9.5%	2.4%	9.5%	38.2%
全体	18.9%	22.2%	14.7%	6.0%	7.2%	31.0%

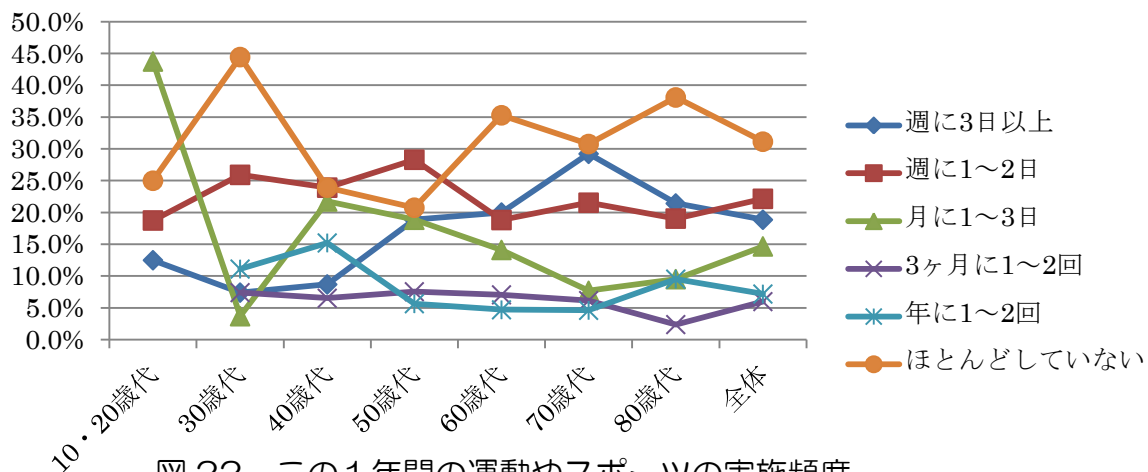


図 22 この1年間の運動やスポーツの実施頻度

図 23 今後実施したい運動やスポーツの実施頻度

	ほぼ毎 日	週に3日 以上	週に1～ 2日	月に1～ 3日	3ヶ月に 1～2回	年に数 回	したいと思 わない
10・20 歳代	-	5.9%	58.8%	23.5%	-	-	11.8%
30 歳代	-	19.2%	23.1%	23.1%	7.7%	19.2%	7.7%
40 歳代	10.6%	19.1%	42.6%	8.5%	4.3%	6.4%	8.5%
50 歳代	9.4%	22.6%	34.0%	15.1%	-	3.8%	15.1%
60 歳代	11.4%	15.9%	28.4%	13.6%	2.3%	3.4%	25.0%
70 歳代	10.6%	30.3%	27.3%	10.6%	3.0%	6.1%	12.1%
80 歳代	13.6%	18.2%	15.9%	9.1%	-	11.4%	31.8%
全体	9.7%	20.2%	30.5%	13.2%	2.3%	6.5%	17.6%

第2章 本市スポーツの現状と課題

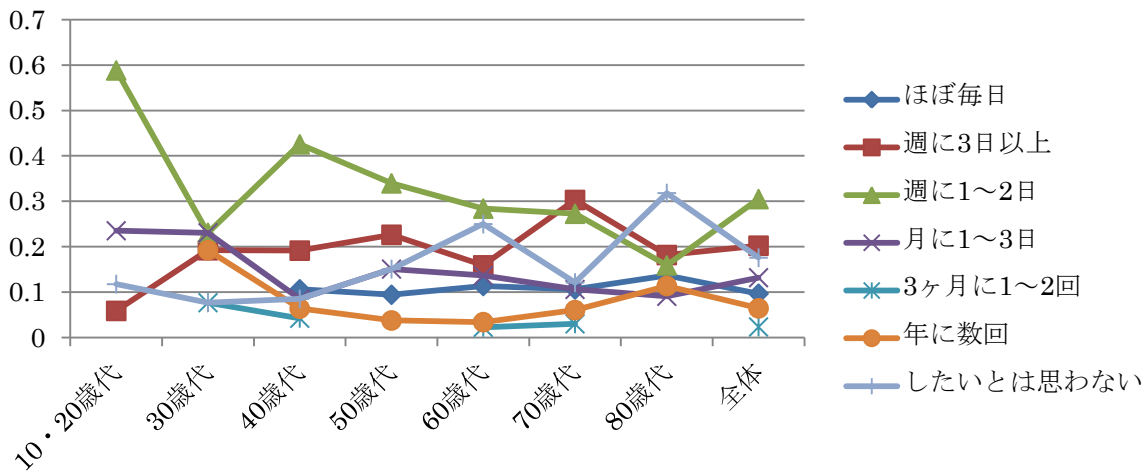


図 24 今後実施したい運動やスポーツの実施頻度

この1年間で行った運動やスポーツ種目、これから最も行ってみたい運動やスポーツ種目（5位まで掲載） 図 25

この1年間行った運動やスポーツ種目		これから最も行ってみたい運動やスポーツ種目	
項目	割合	項目	割合
ウォーキング	17.3%	ウォーキング	16.3%
体操(ラジオ体操)	10.0%	グラウンドゴルフ	6.8%
グラウンドゴルフ	6.5%	水泳	4.7%
ボウリング	5.8%	ゴルフ(コース)	4.1%
ジョギング・ランニング	5.6%	山岳(登山・クライミング)	3.6%

スポーツボランティアに関する意識

スポーツ関連のボランティア経験者は7.7%であり、この率の評価については論拠がありませんが、一番多いのは自ら関係するスポーツ団体の活動の手伝い、次いで大会やイベントなどでの一般的な支援となっています。

また、今後のボランティアに対する意向については「行ってみたい」または「機会があれば行ってみたい」と回答した人41.9%を、「行いたくない(関心がない)」と回答した人51.6%が上回っています。

また、設問どうしの関連性はありませんが、アンケートにおいて「あなたは運動やスポーツが好きですか」との問いに対して「自分でするのが好き」、「見るのが好き」等「好き」と回答した人が86.3%と高率なのに比べて対照的です。

第2章 本市スポーツの現状と課題

あなたは、この1年間、スポーツにかかわるボランティア活動を行ったことがありますか。(1つを選択) 図26

項目	割合
ある	7.7%
ない	86.9%
無回答	5.4%

あなたは、スポーツにかかわるボランティアはどのようなものを行いましたか。(あてはまるものすべてを選択) 図27

項目	回答数	順位
スポーツの指導やコーチ	11	3
クラブやスポーツ団体の運営や活動の手伝い(クラブ役員、世話役、運搬・運転など)	16	1
スポーツ施設の管理の手伝い(清掃、用具の準備や片付け、車の誘導など)	4	5
大会やイベント等において専門的な立場の支援(審判員、データ処理、通訳など)	4	5
大会やイベントなどでの一般的な支援(受付・案内、記録・掲示、接待、運搬・運転など)	14	2
障がい者のスポーツ活動に対する支援	5	4

あなたは、これからスポーツにかかわるボランティアを行ってみたいですか。(1つを選択) 図28

項目	割合
行ってみたい	4.3%
機会があれば行ってみたい	37.6%
行いたくない(関心がない)	51.6%
無回答	6.5%

スポーツ実施と住民満足度等との関係

平成28年度の市民意識調査では、スポーツに関する意識とともに、住民満足度等

第2章 本市スポーツの現状と課題

についても調査を行い、運動やスポーツの実施と満足度や幸福度との相関関係を明らかにしました。

そこで現れたスポーツ等の実施と満足度等との間には、明らかに実施と満足度等の意識とに相関関係がありました。すなわちスポーツ等の実施率は住民満足度のバロメーターとなっていることが判明しました。特に、実施率は住民の地域への愛着度を図る指標とすることができ、今後の日田市の施策の中心が定住とされることから、スポーツ振興の立場から、スポーツ等の実施率の向上を最大の目標とすることが妥当です。

スポーツ実施による住民満足度等

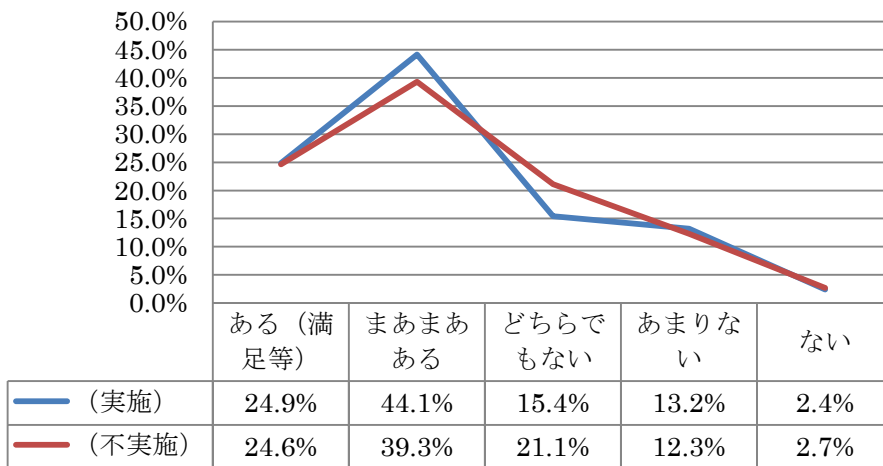


図 29 スポーツ実施による住民満足度

「住民満足度等」は「生活に対する満足度」、「幸福度」、「いきいき度」、「地域愛着度」の平均を算出したもの。

スポーツ実施と地域愛着度

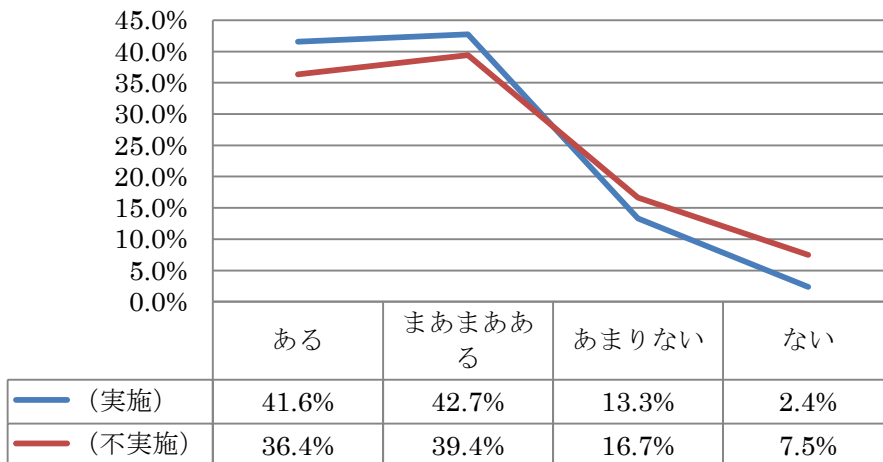


図 30 スポーツ実施と地域愛着度

第2章 本市スポーツの現状と課題

スポーツ実施率の向上と阻害要因

スポーツ等実施率の向上を図るためには、住民がなぜスポーツ等を実施するのか、実施を妨げているものがあればそれは何かを明らかにする必要があります。

今回の調査では、前回同様、「健康・体力づくり」や「運動不足解消」を合わせると49.2%と、約半数が健康志向によるものです。続いて「楽しみ」や「交流」等となっています。

スポーツ等の実施にあたっては、「健康・体力づくり」や自身にとって「楽しく」やりたいという意向を踏まえ、きっかけづくりを行っていくことが肝要だと考えられます。

一方、実施にあたっての阻害要因としては、「加齢」が第1位となっており、続けて「多忙」などが挙げられています。

高齢者でも仕事や家事で忙しい人でも、病気の人でも障がいを持つ人でも、手軽に行えるもの、参加できるもの、身近に施設がなければ施設がなくてもできる運動やスポーツの普及推進を図り、住民の意欲を支えることが重要です。

また、日田市のスポーツの振興により期待されているものとしては、「高齢者の生きがいづくり」が最も高いことがわかります。この生きがいにつながるものは、市民にとっては自らがスポーツ等を行うことであり、市民におけるスポーツ実施率の向上によって、高齢者に限らず、市民一人ひとりにとっての生きがいづくりに結びつくことが期待されます。

運動やスポーツをする理由・運動やスポーツを実施するとき、困っていることや妨げ、実施できない理由 図31

運動やスポーツをする理由	割合	運動やスポーツを実施するときの障害	割合
健康や体力づくりのため	29.5%	年をとっている	14.1%
運動不足を感じるため	19.7%	家事が忙しい	7.7%
楽しみ、気晴らしのため	19.5%	勤務時間が長い	7.3%
友人・仲間との交流のため	13.4%	病気である	7.0%
美容やダイエットのため	5.3%	身近に施設がない	5.6%
		一緒に行く仲間がいない	5.4%
		他の趣味が忙しい	5.3%
		施設を利用するのにお金がかかる	5.0%

第2章 本市スポーツの現状と課題

※運動やスポーツをする理由については上位 5 位、運動やスポーツを実施するときの障害については上位 8 位までを記載

図 32 スポーツ振興に期待するもの

項 目	割合
高齢者の生きがいづくり	21.7%
地域コミュニティの形成	12.5%
余暇時間の有効活用	12.3%
青少年の健全育成	11.9%
健康やスポーツに関する情報の充実	8.9%

※上位 5 位までを記載